



2つのコンテナを組み合わせた住宅例。コンテナの質感を生かしたシンプルな仕上げで、内部はオープンに。必要な分だけ使い分ける照明設計も見所



スケルトンのキッチン。必要なアイテムを付け足すだけで自分仕様のキッチンになる

30坪のコンテナのシャワーカーテンのスノコで水対策をするなど工夫

新しい住み方・住まいの選択「コンテナハウス」

読谷村字宇座、海にほど近い静かな環境に、真っ白な「コンテナハウス」が誕生した。店舗、事務所に見えるシンプルなボックスは、3世帯の集合住宅。柱なし、間仕切りなし、コンテナの質感を生かしたワンルーム空間は、「こう住みたい」の創造力をかき立て、暮らしをつくる楽しみを広げてくれる。

使い方自在、戸建て感覚の賃貸住宅

必要な分だけプラス
資材を有効活用するエコ
な要素を取り入れつつ、自
分で暮らしやすさを工夫す
る発想から生まれたコンテ
ナハウス。2つのコンテナを
溶接した74m²タイプ2棟と、
40フィートの30m²の1棟合
わせて3戸となっている。

各戸のコンテナは、前面道路から1つずつずらして配置し、外観にリズムをつけながら駐車スペースを確保。正面は、天井高いいっぱいの掃き出し窓で自然光

をたっぷり取り込み、後方ツキスペースを設けた。室内は、柱や梁のないオーブンな空間に、キッチンやシャワールーム、収納やワークデスクなど、組み換

え自在な家具を造りつけた構成。生活に必要なパーツはしっかりと確保しながらもすつきりと、コンテナ、スチール、木それぞれの質感を生かしたシンプルな仕上げになつていているので、自分の暮らしに必要なアイテムだけを加えていけばいい。

エコノミーに

プロジェクトの根幹にあるのは、空間の自由度を高めたデザイン性とともに、成形されている構造物の利点を生かし、経済負荷と環境負荷を抑えたエコノミー、エコロジカルな空間プロデュースの発想。同住宅を企画したe.co room(エコルーム)では、以前からコンテナの可能性に着目(その経緯は本紙1212号・2月20日発行で紹介)。今回「自分が住みたくなる魅力ある住

宅」というオーナーの依頼と合致し住宅を実現。「住み手に合わせて多用な使い方ができる、柔軟な空間づくりを目指しました。コンテナの場合、通常の建物を造るより初期コストがかからなくて済む上、メンテナンスがしやすいなどの利点がある反面、鉄でできているので、暑さや錆対策はもちろんメンテナンスも必要です。それらを施主とともに十分考慮した上での選択」と話している。

決められた形に合わせるのではなく、「暮らしをつくる遊びのある空間」なら、自分にとつて心地いいが、いつも発見できそうだ。

暮らし映えるシンプル仕上げ

同住宅には、クローゼットや収納、ワークデスクなど、家具が最小限造り付けてある。使い方に合わせて、レイアウトを自由に変えられる上、統一感のある仕上げになっているので、コーディネートがしやすい。

空間楽しむ
アイデア

「自分の暮らし」自在に

「住み手に合わせて多用な使い方ができる、柔軟な空間づくりを目指しました。コンテナの場合、通常の建物を造るより初期コストがかからなくて済む上、メンテナンスがしやすいなどの利点がある反面、鉄でできているので、暑さや錆対策はもちろんメンテナンスも必要です。それらを施主とともに十分考慮した上での選択」と話している。

